

学 会 記 事

◎第2回理事会(昭.34.7.24)出席者:田中会長,本間副会長,川村,尾之内,八十島,小野,西嶋の各理事。報告事項:7月25日までの各種委員会および行事,会計,刊行物の報告。協議事項:1)34年度各支部普通交付金を決定,2)夏期講習会の受講者勧誘の件を承認,3)各種委員会の改組について各関係者により調査の件,4)a.文献調査委員会 山村和也君,徳田 弘君を追加委嘱,b.橋梁構造委員会 村上永一君(富樫委員と交代),樋浦大三君(松村委員と交代),松崎彬磨君(川崎幹事と交代)を委嘱,伊藤 学君を幹事に追加委嘱を承認,5)東京市政調査会よりの要請は関係方面の意見を照合して善処すること,6)土木賞規約制定委員会,土木会館委員会,土木士法制定委員会の委員長の選考を会長副会長,総務理事に一任,7)秋のエキスカッションを計画すること,8)その他,9)6月中の会員入退会を承認。

◎各種委員会

1. 第2回会誌編集委員会(昭.34.7.24)出席者:八十島編集部長,田原委員長,大西,高橋(代草野),梅野,上東,米沢,足立,堺,吉田,寺島(代鶴見),中村(代大久保),難波(代尾仲),都,樋口,海保,奥村,田村,後藤(代樋浦・東北)の各委員,深谷幹事。議事:1)投稿原稿審査報告,2)新規受付原稿審査委員の決定,3)依頼原稿の件,4)交通シンポジウム座談会の件,5)ドルシェ氏(西独)来日にともない座談会企画の件,6)44巻9号登載原稿を次のとおり予定した。

井深 功・渡辺和夫:横浜市PC水槽工事について,仁杉・河野・菅原:PC桁の耐火性の研究,鈴木雅次・川北米良:土木計画における産業連関分析とLinear Programmingの適用一追補一,中尾光信:関門トンネルの管理上の問題。

2. 第2回会誌編集小委員会(昭.34.7.6)出席者:田原委員長,寺島(代鶴見),海保,中村,堺の各委員。議事:1)44巻8号会誌編集について最終的な打合わせを行った。2)44巻7号口絵写真およびニュースの検討,3)その他

3. 第1回論文集各部委員会(昭.34.7.2)出席者:国分前編集部長,八十島編集部長,井口編集次長,徳平編集幹事。第1部会:高田前部会長,奥村部会長,伊藤,井上,伊東,大久保,君島,田島,大地(前),樋口(前)の各委員。第2部会:竹内部会長,芦田,原口,光易,藤波,木村,嶋の各委員。第3部会:最上部会長,比留間,高橋,竹下,山口,渡辺,三木(前)の各委員。第4部会:友永前部会長,丸安部会長,大島,佐藤,鈴木,三野,細井,藤井,松原(代),黒河内(前),渡部

(前)の各委員

議事:1)各部会ごとに審査報告および新規受付原稿審査委員の決定,2)新旧委員の事務引きつぎを行ったのち委員長,部会長および部会幹事を次のとおり決定した。

委員長	最上 武雄	
第1部会長	奥村 敏恵	幹事 田島 二郎
第2部会長	竹内 俊雄	〃 千秋 信一
第3部会長	最上 武雄	〃 山口 柏樹
第4部会長	丸安 隆和	〃 細井 昌晴

4. 第1回論文集部会長会(昭.34.7.14)出席者:八十島編集部長,最上委員長,丸安,田島,嶋,山口,細井の各委員,徳平編集幹事。議事:1)各部会報告,2)論文集64号(昭.34.9発行)登載原稿の予定,3)その他。

5. 第2回文献調査委員会(昭.34.7.6)出席者:井口理事,樋口委員長,高野,山村,国広,日野,土屋(代田中),南雲,佐藤,新谷の各委員,矢島幹事,御穂氏(情報センター)。議事に先立ち井口理事よりU.D.C.分類についての最後の講義があつた。議事:1)44巻8号登載の文献抄録および目録カードの選定,2)担当文献の追加について,3)委員の追加について,4)カード分類について,5)その他。

6. 第28回耐震工学委員会(昭.34.7.7)出席者:沼田委員長,岡本,伊藤,篠原(武),星埜,田原,松尾,石井,小西,友永,畠山,篠原(清),高田の各委員,久保幹事。議事:1)WCEEの準備状況のうち論文について協議,2)第3回地震工学研究発表会について,a.講演数29編のプログラムを決定,b.講演概要を200円とし350部作ること,c.懇親会は会費500円とする,3)その他。

7. 橋梁構造委員会(昭.34.7.11)出席者:福田委員長,奥村,小西,田中,田原,富樫(代杏掛),友永,成瀬(代遠藤),平井,安宅,川口(代小寺),猪股の各委員。議事:1)委員のうち公務の関係で交代および追加委嘱,村上永一君(富樫委員の後任),樋浦大三君(松村委員の後任),松崎彬磨君(川崎幹事の後任),伊藤学君を幹事に追加,2)エンサイスクロベチャに提出のデータを道路橋(建設省),鉄道橋(国鉄)から選定すること,3)第2回世界地震会議に提出の論文を8月中にまとめること,4)来年度の研究発表会のテーマを土木としては——新しい橋梁・構造——を予定すること,5)ストックホルムのIABSEに提出の論文を準備すること,6)インドのBazaz氏提唱の件は今秋の日本道路会議に同氏を招き話し合うこと。

◎その他

1. 日本学術会議第5期会員選挙立候補者推薦に関する前会長懇談会(昭.34.7.9)
2. ハンドブック改訂発電部会(昭.34.7.17)
3. 第3回材料試験連合講演会第2回運営委員会(昭.

34.7.18)

4. 第6回「風のシンポジウム」開催に関する打合せ
(昭. 34.7.14)

支 部 だ よ り

1. 東北支部

1) 会誌編集地方委員は後藤幸正氏留任とする。

2) 常磐地区見学会(昭.34.7.4) 平集合一磐城国道一小名浜一常磐火力一高柴ダム, 会費 1000 円, 参加者 73 名。

2. 関西支部

1) 幹事増員 丹羽義次(京都大学工学研究所教授)

2) 第3回幹事会(昭.34.7.22. 近畿地方建設局) 出席者: 小西幹事長, 井部, 北村, 中川, 丹羽, 別所の各幹事, 倉田商議員。

書 評

北海道の開発と公共事業

国民経済研究協会編 時事通信社刊

北海道は明治の開拓使以来, 今日まで 90 年を経過した。四つの島に閉ざされた日本は改めて, 戦後唯一のホープといわれた北海道の開発計画に着目した。戦後その開発には, 実に多くのものが支出されているにもかかわらず, いまなお自然条件のきびしさは, 今日, 期待された北海道と現実との間には, まだ相当の距離のあることを, あらためて認めざるを得ない。それは公共事業そのものが, そのふくむところが広範複雑な分野を対象とするだけに, 問題が

あると説いている。前編と後編の2編に分れ, 前者は総括的な意見と提案で, 後者は公共事業の各部門について, 具体的に事例をあげて解明している。これからの北海道は, 天然資源で生きるのではなく, 科学と人間の労力とで生きなければいけない。そのためには何より大切な事は, 開拓頭初の北海道民の自主独立の精神であると説いている。その機関を動員しての年余の調査は, 微に入り細にわたり, 多数の統計および図表を挿入して, あますところなく分析して

いる科学診断には, 深く敬意を表したい。本書は公共事業と密接なる関係を有する土木関係者にとつて, その立場においての差こそあつても, 日本経済のこの数年の急速なその規模の発展拡大とともに, 最近提唱されている I.E. 的な考え方もふくめて, 総合的視野にたつて, 公共事業を思考する場合に, きわめて適切なものと思われる。文章は平易であり, 一般土木関係者, 新制大学, 実務にたずさわる技術者にぜひおすす

めしたい。
B5判 350 ページ 箱入上製,
定価 1000 円, 昭 34.5.20 発行。

会員入退会について (昭和 34.7.31 現在)

1. 入	会	110 名 (正 41, 学 69)
2. 退	会	(33 名 特 2 1, 特 3 1, 正 28, 学 3)
3. 転	格	12 名 (学より正へ 12)

会員現在数 (昭. 34.7.31 現在)

名誉員	賛助員	特 1A	特 1B	特 1C	特 2級	特 3級	正 員	学生員	増 減	計
24	30	17	12	71	109	93	13 391	939	+77	14 686

正 員 中 野 忠 雄 君 大阪工業大学高等学校教諭 昭和 34 年 6 月逝去 34 才

昭和 34 年 8 月 10 日 印刷	昭和 34 年 8 月 15 日 発行	土 木 学 会 誌 第 44 卷 第 8 号
印 刷 者 大 沼 正 吉	印 刷 所 株 式 会 社 技 報 堂	東 京 都 港 区 赤 坂 溜 池 5 番 地
編 集 者 八 十 島 義 之 助	発 行 所 社 団 法 人 土 木 学 会	東 京 都 新 宿 区 四 谷 一 丁 目 (外 濠 公 園 入 口)
定 価 100 円	振 替 東 京 16828 番	電 話 (35) 5130・5138・5139 番